

2014年6月27日

重要なお知らせ

CEMA 会長 木下真生

専務理事 平野克己

今ここに会員会社すべて(正、賛助、NET)にパワーポイント形式のスライドにてメールにてお送りしている御知らせはCEMAの2014年度から2016年度の2年度にわたる基本の運営に対する考え方を述べたものです。

さる6月20日に第38回CEMA総会が新横浜国際ホテルにて開催され、昨年度の活動報告とともに、本年度の基本運営方針を発表させていただき、満場一致にて総会承認をいただきました。その報告、および発表内容はCEMA HOME PAGE にすべてUPされておりますので、御一覽いただきご理解を深めていただければと思います。

さて、上記のご報告、発表によりCEMAの新年度はスタートしたわけではありますが、2期目(2年間)の会長を務めさせていただく事となりました私としては、この2年間に対して、なにを最大の挑戦事項として行きたいのか、また運営上何を最重要課題として取り組んでゆくつもりであるのかを、再度確認させていただきたく、本添付パワーポイント資料を作成、お送り申し上げている次第でございます。

本来我々が目指す形は、このように(今やっているように)すべての会員会社に個々にメールを差し上げるということ省き、この資料をHOME PAGE にUPし、その旨だけを皆様にお知らせしておけば、あとは皆様方がそれぞれ見て理解して下さる、という形を作り上げるということあります。しかるに現在はAMGの形がまだ完全には整っておらず、そういう扱いにすると不徹底が残るということで、過渡的な扱いと言うことで、HOME PAGE へのUPをしてゆく傍ら、このように個々の会員会社にメールを送付させていただいているということでもあります。

なにとぞ皆様のご尽力と最大限のご協力を持ちまして、一日も早くAMG、AMGPの大動脈ができ血管ができ新鮮な情報の行き来という血流が始まるという形を実現できたらと思います。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

この2期目も、会長の木下、そして専務理事平野の2名がお互いに緊密に協力をしながら‘CEMA ってすごいね！’と言う実績を皆さま方とともに築きあげてゆく所存であります。なにとぞ皆様のご協力よろしくようお願い申し上げます。

以上

CEMA全会員の皆さまへ

新たな再任期間に向けての

**CEMA運営基本方針
の再確認**

**CEMA会長
木下真生**

2014年6月27日

ご挨拶

- ✓ **第38回CEMA総会もお陰様で無事終了し、2014年度の運営が正式に開始されました。**
- ✓ **この度の総会において、私木下真生が会長再選となり、また各理事、専務理事も全て再選。
副会長会社として新たにパーカーエンジニアリングが選任、また監事会社として従来のパーカーエンジニアリング社に代わってランズバーグ・インダストリー社が選任されました。
いづれにせよ過去2年の諸運営・方針は、継続されていくこととなります。**

ご挨拶

- ✓ **CEMAも会員会社(正、賛助、NET)が2倍以上に膨らみ(28社⇒70社)、その運営もパワーと連携の必要性が益々大きくなってきています。**
- ✓ **そこで、次の2ヶ年(2014～2015年度)のCEMA運営の基本方針を再確認させていただきたいと思います。これは再選会長としての私の次の2ヶ年のCEMA運営方針ともいうべき基幹の方針と考え方を述べたものであり、これらの一つひとつを会員の皆様全員のご理解いただき、かつご賛同いただきCEMAをさらなる発展の軌道に乗せるべくご協力させていただきたいということでもありますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。**

CEMA活動に対する基本的考え方

(CEMA設立の基本精神に立脚し、そこからさらなる展開として)

- ✓ 事業分野の縦串にとらわれない“**塗装産業**”という大きな傘の下にある各産業分野の参加を募り、横の連携を図り、そこからコミュニケーション、コンタクト、技術的交流を成長のエネルギー源としてFinishing技術を中心とした日本のものづくりに貢献していく。
- ✓ 他団体との積極的交流を図り、広義の塗装産業の地位向上とイメージアップを志向していく。
- ✓ 政府関連諸団体とも密なコンタクトを保ち、各種統計のさらなる精度UP活動、大気汚染低減活動、その他地球環境を守るための諸活動も諸団体との連携により積極的に参加し、団体としてのCEMAの存在価値を高めていく。

CEMAの組織づくりおよび運営

- ✓ **総会でも発表し承認された組織の下でCEMAの運営を行っていく。**
CEMA運営に関わる重要事項は9委員+5部会長=14名からなる新運営企画委員会で討議、審議され、その結果を理事会にて承認を得る形で正式なCEMAとしての決定事項となる。新運営企画委員会は定例会に加え必要に応じ臨時会(メーリングリスト会合含む)で開催され、これに応じて理事会もタイムリーに定例会、臨時会(メーリングリスト会合含む)で承認を出す。
- ✓ **各部会、委員会は各々のイベント日程に沿った形で会合を持ち、その結果は他の各部会、委員会、新運営企画委員会、理事会が閲覧できる様、ホームページに情報発信する。また事柄の重要性に応じ、適宜判断し理事会の承認を得るようする。**

CEMAの組織づくりおよび運営

- ✓ **AMG(Active Maintenance Group)については、AMG委員長はAMGが属する新運営委員会の総力を挙げ、全会員会社から各1名のAMGP(AMG Partner)をノミネートして貰い、CEMAの全組織にAMGの血流が通るようにしていく。この血流が通ってはじめて新ホームページはその機能を100%発揮できることになる。**
- ✓ **今回の新組織の最重要達成事項かつ最早達成必要事項として取り組んでいただきたい。また本件(AMGPの登録)に関してはCEMA会員会社全社が適切なる人選(IT、HPなどに精通している人物が望ましい)を行いAMGはCEMAホームページの中核コミュニケーションツールとして一日も早く機能開始できるよう全面的な協力をいただきたい。**

ホームページについて

- ✓ ホームページの活性化は、AMG組織が起き上がる(具体的には全社からAMGPを登録して貰う)ことが大前提。その上で達成すべきは、全会員会社のプチホームページ(年間使用料1万円)、またバナー広告への参加(現在は4社のみ。最低10社以上参加目標)とし、ホームページ財源確保に努める。
- ✓ AMG本部がAMGP組織を最大限活用し、AMGPに新鮮なNEWSや情報のUPを促し、ホームページ上には常に各社からの最新情報が溢れる状況を実現努力、また会員会社全員が最大限の協力をさせていただくようお願いしたい。

CEMA主催イベントについて

- ✓ **今回、事務局刷新で従来の運営企画委員長(専務理事)および関係各位の負担は多少軽減されるかもしれないが、いづれにせよそれでも種々の負担が生じることは明らか。これに対しては、今回新たに誕生した新運営企画委員会の委員14名に加え、イベントに関連する会員各社の最大限のご協力を仰ぎたい。**
- ✓ **CEMAが任意団体として活動する以上、これらのイベントの運営は会員からのボランティアサポートによらねば実行不可能であり、その点のご協力を切にお願い致したい。**

予算、経理管理に関して

- ✓ 従来、年1回の監査を改め、四半期毎の監査を実行する。現在クラウドソフトを検討中、月額数千円の費用で出納管理が明確かつ簡単に行えるようになる予定。
- ✓ 経費精算も、従来方式以上に分かりやすい形を検討中であり、これまで以上に透明性ある形になるよう検討中。
- ✓ 毎年予算を使い切る、という考え方より、むしろ将来のためにできるだけ留保・繰越しできる形で運営していきたい。
- ✓ 財政状況に大きく左右されるが、できれば5部会に対し、ある程度の活動費(30-50万円)を持って、これまで以上に活発な幅広い活動を展開して貰えればと考えている。状況がはっきりした時点で活動費の審議および承認の手続きにつなげたい。

以上、新CEMA年度は、前期に比べてもさらに執行部、事務局そして会員相互の密なる連携が求められる運営になると思います。

お互いの連絡を密にし、物事が迅速かつ正確に伝わるよう協力し合って、

“さすがCEMAはすごいね”

といわれる団体にしていきましょう。

よろしく申し上げます。